

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	和泉ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の擬音語に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の擬音語に注目しようと考えました。またこの擬音語は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が子どもたちの好きな乗り物について問いかけました。「この乗り物は走っているときどんな音を出してる?」「ブブー?車もバスも一緒」「クレア先生は英語の先生だけれど、英語でも同じ音なのかな?」

【流れ】英語講師の来園日には、英語で乗り物の音の入った歌を歌うなど、英語の擬音語を体験し、保育者は子どもたちと一緒に参加します。乗り物のカードを使い英語で乗り物の名前を学びます。また自由遊びの時間には皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*歌:2歳児クラス

*カード遊び:2歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているため、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

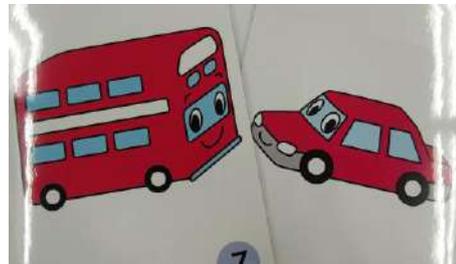
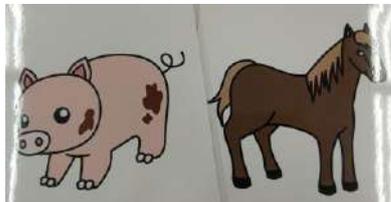
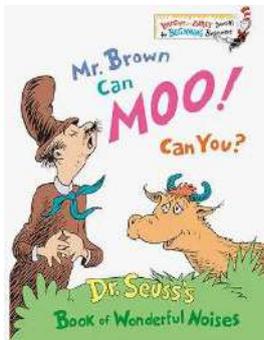
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 絵カード：動物、乗り物の絵カード

* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"



4-①. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

* 2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

・乗り物のイラストカードを見て、名称を英語で答える。

◎活動中見られた子どもの姿

・初めにイラストカードを出しながら講師が英単語を話すが、馴染みがないものが多く、カードを出されてもイラストを見て日本語で答えている。

・講師がヒントとして頭文字を言っても繰り返すのみの事が多い。

・回数を重ねることで、簡単な単語(airplane、trainなど)は答えられる児もいた。

◎保育者との関わり

・分からない単語に対し、最初の文字をヒントとして伝えることで答える様子が見られた。

・担任が日本語で「これは何だった？」と聞くと日本語で答えていた。英語だと分かる？と聞くと分からないと答えたり覚えている単語は英語で答えていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】自分たちにとって身近な乗り物は興味があるので、英単語を覚えるのもは早かった。普段の保育の中でも図鑑などで「これって英語でなんていうんだっけ？」と気にする児もいた。音で覚えているので、講師が話す発音も自然に口にしているように感じている。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちと絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に乗り物の絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

*2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

・乗り物の絵カードを見て、この乗り物が動いた時の音を言う。

◎活動中見られた子どもの姿

・講師が乗り物の擬音語や擬態語を英語で話し、子どもたちは繰り返していた。

・一通り教えてもらった後でもう一度きくが、日本語で答える子どもが多い。講師がヒントとして頭文字を言うと思いついた児は英語で答えている。

・ちょっと難しいなと話す児もいた。

◎保育者との関わり

・分からない単語に対し、最初の文字をヒントとして伝えることで答える様子が見られた。

・担任が日本語で「これはどんな音で走る？」と聞くと日本語で答えていた。英語だと分かる？と聞くと分からないと答えたり覚えている音は英語で答えていた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】擬音語などの英語は聞き馴染みがないこともあり、難しそうなる表情をする児が多かった。講師に英語での音を教えてもらった直後は覚えているが、時間が経つと忘れていたので、普段の保育の中でも取り入れて身近に感じられるようにしたい。

【次回への問い】2歳児の子どもたちはことばには日本語も英語もあるところまでは何となく理解しているようではあるが、乗り物の音などの擬音語にも英語や日本語の表現があることは気づいておらず、語彙が増えるにつれて、音にも関心が行くのかもしれない。